

小幡城跡 ～現存する巨大な中世の城郭は、愛好家には関心が高い～

小幡城跡は、関係する資料が残っておらず、中世の城跡という以外は、いつ、誰が建てたのか分かっておりません。しかし、土塁や空堀がほぼ完全な姿で残っている城は全国的に見ても少なく、貴重な城跡であると言われてい



す。
築城は、小田光重（おだみつしげ）が1220年頃（鎌倉時代）に築城した説と、大掾義幹（だいじょうよしもと）が、1420年頃（室町時代）に築城したという二つの説があります。

その後、江戸氏の支配下となり、1570年頃（天正年間）、今の城の形となり、重要な拠点として使用されていました。

城跡は進入しにくい構造となっており、土塁の上から敵を攻撃することも可能ですが、土塁と土塁の距離が短いため、鉄砲戦には対応できなかったと思われます。

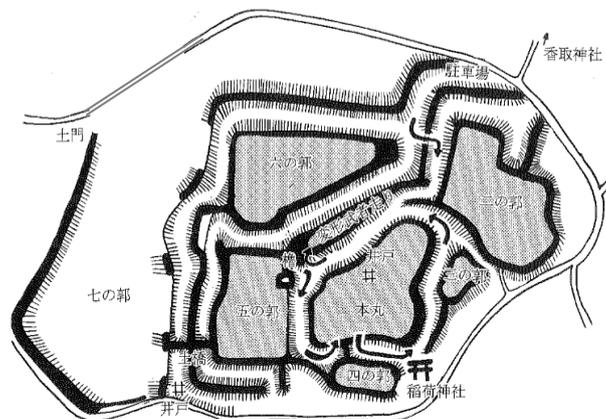


天正18年（1590年）に、佐竹義宣（さたけよしのぶ）によって攻められ、落城したと言われています。

1600年の関ヶ原の戦いでは、この地を治めていた佐竹氏が秋田移封（1602年）された際、廃城に至ったと思われます。

平成17年から18年にかけて、東関東自動車道の工事のため、「七の郭（くるわ）」を発掘調査したところ、家臣などの住居地とされていた場所は、墓や広大な広場であったと、判明しています。

なお、本丸に残る井戸には、落城した際、金の鳥を抱いたお姫さまが身を投げたという、悲しい伝説が残っています。



【文化財指定】

昭和45年1月12日 町指定史跡

小幡北山埴輪製作遺跡 ～全国で一番多い59基の窯跡～

この遺跡は、良質な粘土がとれ、豊富な湧き水もある場所であり、近くに水運として利用できる涸沼川や涸沼があるため、地理的条件が良く、埴輪を作るには適した場所であったと考えられています。

出土した土器は、6世紀中頃から7世紀前半の古墳時代のものと言われており、ここで作られた埴輪は町内4箇所の古墳と旧玉里村（小美玉市）の舟塚古墳で確認されています。



昭和28年（1953年）には、開墾中、埴輪等が出土し、遺跡として知られていましたが、遺跡調査は行われず、一部は耕地化されてしまいました。

昭和62年5月、偶然に窯跡が発見され、重要な遺跡であると判断し、昭和62年から昭和63年の間に、3回に分けて調査を行いました。

調査では工房跡は8つ、粘土採掘坑跡は4箇所、埴輪窯跡は全国でも一番多い59基が発見されています。既に消滅した遺構も考慮すると、全国でも大規模な製作遺跡であったと思われます。

しかし、大規模な施設であるにもかかわらず、住居跡は発見されなかったことから、別の場所に住居があったのではないかと考えられています。

現在、この場所は、「小幡北山埴輪製作遺跡公園」として管理しています。



人物埴輪

町指定有形文化財
平成22年6月11日登録

【文化財指定】

平成4年1月21日 国指定史跡